第69回国体夏・秋大会開催地内定に係る中央競技団体正規視察（長崎県）
報　告　書

標記の件について、下記のとおり報告いたします。

競技名	柔道	期間	平成21年1月27日(月)
会場予定市町村名	諫早市		計１市
説明者・立会者 ※（）役職	県関係	長崎県文化・スポーツ振興部　国体準備課課長　徳永　一俊 長崎県文化・スポーツ振興部　国体準備課　競技班　鹿摩　幸政 長崎県文化・スポーツ振興部　国体準備課　競技班　川村　喜実 長崎県文化・スポーツ振興部　国体準備課　施設班　大見　宏一	
	市町村関係	諫早市教育委員会　教育長　峰松　終止 諫早市教育委員会　教育次長　平古場　豊 諫早市教育委員会　保険体育課長　榎並　辰朗 諫早市企画進行部　次長　金子　昌彦 諫早市教育委員会　保険体育課　加藤　成昭	
	競技団体関係	長崎県柔道協会副会長　石川　良博 長崎県柔道協会理事長　佐原　恭輔 長崎県柔道協会事務局長　藤田　洋介 諫早市柔道協会事務局長　濱本　耕吉 諫早市柔道協会事務局　深山　和人	
	随行員	黒田　正人（全柔連大会事業課課長代理）	
競技施設の 準備状況	①施設の大きさ 会場予定の「諫早市小野体育館」は、縦42m×横36mのメインフロアを有し、基準の3試合場を横一列に設置するには狭く、変則的に設置する必要がある。開催地としては今年の大分国体のように2試合場で開催したい意向であり、今後の検討課題である。 ②練習会場 会場にはサブアリーナがあり、そちらを練習会場として使用する予定である。但し、広さ的には十分ではないので、ここを当日の選手の練習場とし、近隣の学校などを翌日意向の選手としての練習会場として確保する必要がある。 ③付帯施設 絶対的な部屋が少なく、会場に隣接の「小野ふれあい会館」を利用する予定である。しかし、場所が離れているため、競技運営に支障のないよう十分な利用計画が必要である。 ④観客席 固定で1,200の観客席を有し、トーナメントボードなどを設置しても1,000席近くは確保できる。今年の大分国体を見る限り、問題はないと思われる。		
競技運営の 準備状況 特に競技役員の 養成計画	①　平成15年には、当会場でインターハイを開催しており、当時の運営をもとに改善点などを検討しながらながら、国体を意識した競技役員の人選及び運営を心掛けることで、より良い国体運営が期待できる。 ②　今年度から人数が削減され、大分国体では2試合場3日間の運営で行なった。しかし、開始時間が早く、終了時間が遅くなり、1日の拘束時間が長くなり審判員や競技役員への負担は大きかった。できれば、3試合場3日間での開催が望ましい。 ③　開催地選出の審判員も競技役員同様に、早めの人選で審判員としての経験を積ませる事で、より良い審判が期待できる。 ④　県外競技役員として必要な数は次の通りである。 a 審判長1名　b 審判員20名 c 審判委員6名（2名×3試合場）　d 総合成績計算委員長1名 e 総務係2名　合計30名		
宿泊、輸送の 準備状況	①宿泊 諫早市内には、計2,400名分の宿泊施設がある。 柔道競技では、選手･監督、競技役員以外にも多くの大会役員、応援が来会する予定であるので、柔軟な対応をお願いしたい。また、審判員・競技役員には、精神的にリラックスできる場を提供するするためにも、シングルルームをお願いしたい。 ②輸送 選手団及び競技役員等の関係者の配宿がどこになるかにもよるが、特に平日朝の交通渋滞が心配されるので、ゆとりをもった移動スケジュールを立てる必要がある。 シャトルバスの運行をお願いしたい。		
総合	現状において、柔道競技会の会場はここ「諫早市小野体育館」の予定であり、既存の施設の中でどのように運営していくか、検討していく必要がある。 運営に関しては、平成15年にインターハイを開催しているが、その時の経験を活かしながら、今後開催する大会で国体を意識しながら運営していけば、より良い国体が期待できる。		

平成21年3月1日

視察者氏名　財団法人　全日本柔道連盟
大会事業委員長　小野沢弘史